ミャンマー大地震の募金活動レポート

工学部電気電子工学科 2 年
YAMIN THIRI KHIT

4 月 10 日（木）、12 日（土）の 10:00〜13:00 および 16:00〜19:00、ならびに 4 月 13 日（日）の 10:00〜11:30 に、浜松駅北口周辺にてミャンマー大地震に対する募金活動を行いました。

私は浜松でこの活動を初めて実施することを決め、4 月 2 日に友人のユさんと一緒に浜松中央警察署を訪れ、道路使用許可を申請しました。その 1 週間後の 4 月 10 日に許可が下り、正式に活動を開始しました。

許可が下りるまでの期間には、Facebook を通じて大学の学生や浜松在住のミャンマー人にボランティアを募集しました。また、活動当日に展示する写真を印刷し、バナーに貼り付けるなどの準備も進めてきました。さらに、静岡大学のはかまた先生のご協力により、スピーカーなどの備品もお借りすることができました。

4 月 10 日の午前の活動には、図 1 と図 2 のように静岡大学の ABP の学生 4 名と、東京から来られた日本人の方 1 名が参加してくださいました。多くの参加者にとって初めての募金活動だったため、皆緊張し、恥ずかしさも感じていたようです。しかし、東京から来てくださった方は募金活動の経験が豊富で、横断幕やのぼりなどを持参してくださり、声の出し方や呼びかけの内容などについても丁寧に指導してくださいました。さらに、昼食までご馳走になり、午後の活動にも引き続き参加してくださいました。

図 1：4 月 10 日の午前のボランティア活動後の記念写真

図 2：4 月 10 日の午後のボランティア活動の様子

この募金活動をきっかけに、「Hamamatsu to Myanmar（H2M）」という名前で Facebook ページを開設し、募金額の集計結果や活動の様子をライブ動画などを図 3 通り報告しました。

図 3：4 月 10 日の午後のボランティア活動後の集計

4月12日は図4と図5のように最も多くのボランティアが集まった日でした。午前には、静岡大学のABP（Asia Bridge Program）の学生3名を含め12名が、午後には14名（うちABPの学生4名）が参加しました。また、ベトナムからの留学生も協力してくれました。

図4：4月12日の午前中のボランティア活動の様子

図5：4月12日の午後中のボランティア活動の様子

4月13日はあいにくの大雨であったため、午前11:30までの活動となりました。雨の中、ABPの学生4名が懸命に取り組んでくれました。屋根のない場所での活動だったため、通行中の方々も寄付をしたい気持ちはあったと思いますが、傘をさすなどの理由で手がふさがっていた方も多かったように感じました。

図6：4月13日の午前中のボランティア活動の様子

図7 ：4月13日の午前中のボランティア活動の様子

三日間の活動を通して、合計 539,861 円の募金をいただきました。災害地への直接的な支援を目的とし、名古屋のボランティア団体「Nagoya Youth Organization for Myanmar」と連携し、約 30 万円相当の米や食用油などの食料品を被災地に届ける予定です。支援対象地域は、ネイピードー近郊にある、家屋の約 80%が倒壊した村となります。活動の詳細は、今後も Facebook ページ「Hamamatsu to Myanmar（H2M）」にて随時ご報告いたします。

残りの約 23 万円については、日本のボランティア団体「Japan Heart」および「Clean Yangon」に分けて寄付させていただきます。

ボランティア達の感想

イェーさん

先日、ミャンマー地震の被災者支援のため、募金活動に参加しました。私はたった 1 日だけのボランティアしたが、多くの日本人が協力してくださる姿に深く感動しました。小さな子供からお年寄りまで、皆さんが進んで募金箱に寄付をしてくださり、「少しですが、お役に立てば」という言葉もいただきました。中には、「ミャンマーの状況はどうなっているのか？」と尋ねてくださる方もいました。日本の方々の温かい支援に心から感謝し、被災地の一日も早い復興を願っています。

パインさん

今回行った募金活動では、ボランティアとしてミャンマー人だけではなく、日本人やベトナム人も参加した。時間を割いて募金活動をどうすればいいのかを説明し、アドバイスしてくださった日本人の方もいる。同様に、寄付した方々の中でも、台湾やインドなど様々なところから来た人もいる。自分の国と全く関係ないと思わず、困っている人なら助けたいという意思を多くの人が持っていることが分かった。

また、ほう・れん・そうというスキルの重要さを再び感じた。募金活動の最終日は朝から雨や風もかなり強かった。ボランティアの中で、遠いところから来る人もおり、その人達が来るのを待ったため、その日の午前の募金活動を始まるのに、結構時間がかかってしまった。確かに、遠い場所から来る人にとって雨の日は不便であるため、来ないほうがいいかもしれない。だが、もし来ないなら来ない、遅刻なら遅刻など事前に連絡しておいたほうが、さらに効率的になるのではないかと思った。

ティハさん

この募金活動を参加して、他の方々と協力することで、自分でも一つの力になれたと思った。“塵も積もれば山となる”というように、ほんの些細なことでも積み重ねていけば大きな成果に繋がることを実感した。